

ガソリンスタンドはまちのエコロジーステーション ～小さなお店の大きなパラダイムシフトへの挑戦～

青山 裕史 (あおやま ひろし/油藤商事株式会社 代表取締役)

油藤商事株式会社(あぶらとうしょうじ)は、明治28年(1895年)、初代青山藤八が屋号を油藤商店としてカンテラ油の行商を初めて以来、人々の生活に欠かせない油・燃料の販売に携わってきた。昭和中期に入り本格的なモータリゼーションの時代となり、自動車燃料であるガソリンをはじめとする石油製品を取り扱うようになった。

化石燃料エネルギーが生活の中心となった現在は、ガソリンスタンド(サービスステーション 以下GS)として石油製品の販売やLPガスの販売、生活関連商品、ガスや上下水道の配管設備、住宅リフォームなどを多岐に渡り事業展開をしている。

また、環境の世紀と言われる21世紀、油藤商事は、ガソリンスタンドの枠を超えた地域循環型社会の新しいキーステーションとして、「ガソリンスタンドはまちのエコロジーステーション」というグランドデザインを掲げ、新たな取組に挑戦している。

脱石油時代は、まぎれもなく「脱GS」の時代でもある。GSが淘汰されていく中、いかに生き残りをかけて事業展開できるか試練の時でもある。またSDGsが叫ばれる中、我々の業界も如何に取り組んでいくのかその実践が求められている。

そのような中、中小事業者が取り組めるSDGsを自分なりにまとめた。これは、環境文明21の「環境力」大賞を戴いたことにより、より明確になってきた実践でもある。

1. 中小企業にしかできない

イノベーションを起こす

ガソリンスタンドをまちのエコロジース

テーションにする取組として、具体的には各家庭から排出される有価廃棄物(資源ゴミ)の分別回収を行っている。

これは、通常のGS内で出るゴミの分別収集の他に、一般家庭のゴミをGSで回収しようとするもので、一般家庭でのゴミ処理の簡便化を図るとともに高いリサイクル率を実現する取組である。GSが燃料のインフラ拠点という視点から、地域循環型社会システムのインフラ拠点へと展開できればと考えている。

また廃食油を集めて、軽油代替燃料に精製しているバイオディーゼル燃料に関しては、「地域でつくる地域エネルギー」というコンセプトを掲げている。「地産地消のエネルギー」と位置付け、「集める=回収」「つくる=精製」「使う=販売」のサイクルが地域社会で成り立ってこそ、地域循環型のエネルギーとなる。

現在バイオディーゼル燃料事業は、先のSDGsや環境対応を検討する企業を中心に問合せが多数来ているが、これらにしっかりと対応し、CO₂ネットゼロ社会の一助になることを目指して取り組んでいきたい。

2. 地場の経済に対する貢献

地産地消の地域循環システムを構築するために、県内企業とのコラボレーションを積極



経営者「環境力」大賞を受賞して

的に展開している。

また BCP（事業継続計画）対策の一環として、企業・自治体・NPO などと災害協定を締結する取組を積極的に進めている。東日本大震災の時に、被災地にタンクローリーで燃料油を配送した経験をもとに、燃料を必要な時に必要な場所に運搬する計画を各関係機関と結んでいる。

また、異業種交流や経営者の倫理観を学ぶ勉強会にも積極的に参加し、地域と共に歩む姿勢を継続して取り組むとともに、コロナ禍であっても、感染症対策をしっかりと講じて営業を続けることで、雇用を守り、新しい雇用に創出できるようにもしていきたい。

3. 地場の人材を育成

ハンデを持った人材を積極的に雇用している。過去には、発達障がい、精神障がい、身体障がいなどのハンデを持った人材を、GS で雇用することで、他のスタッフとのコミュニケーションを育成し、自立した生活基盤を継続できる仕組みづくりを提供している。

中でも印象深いのは「K君」、精神障がいを持った 30 代の青年で、統合失調症と診断され、主な症状は、「幻聴」である。左後ろから、謎の声が聞こえ、「死ね！やめてしまえ！」と言っているそうだ。彼の生まれ持った鈍感力でその声と何となく付き合っているとのこと。普通では、発狂してしまうのでは、と心配だが、良くがんばっている。



私は上司として、彼に「マイナスの言葉が来たら、プラスの言葉で打ち返せ！死ねと言われたら生きてるぞ！と言いつ返し」と指示をだすと、ある時「がんばれ！」と言われたと言ってきた。謎の声が「がんばれ！」と言ったという。しっかり向き合えば、きっと新しい変化が生まれるのだろう！そんな事を彼から教えられた。

この分野はまだ奥が深い。全国の中小企業の経営者が、ハンデを持った人たちを 1 社 1 名雇用することができれば、この世の中はきっと変わるだろう。今後もどんどん調査研究を含めて広げていきたい。

最後に

東日本大震災以降、毎年のように起こる異常気象・自然災害。「できる時にできる人ができる事をする」というフレーズは、私がボランティア活動で出会った言葉である。

この言葉通り、近年の全国各地での地震や水害や台風の大きな被害時には、私自身もボランティア活動に奔走している。

その中で「他喜力」というものを学んだ。他人の喜ぶことに全力で対応することが自身の大きな力になるという考え方で、「人の喜びが我が喜びである」という考え方でもある。

この精神を持ってボランティア活動を行うととても清々しい気持ちになる。

仕事も家庭も地域社会貢献も、これからも全力で走っていきたい。

